

# 水文観測所等見廻点検における安全対策について

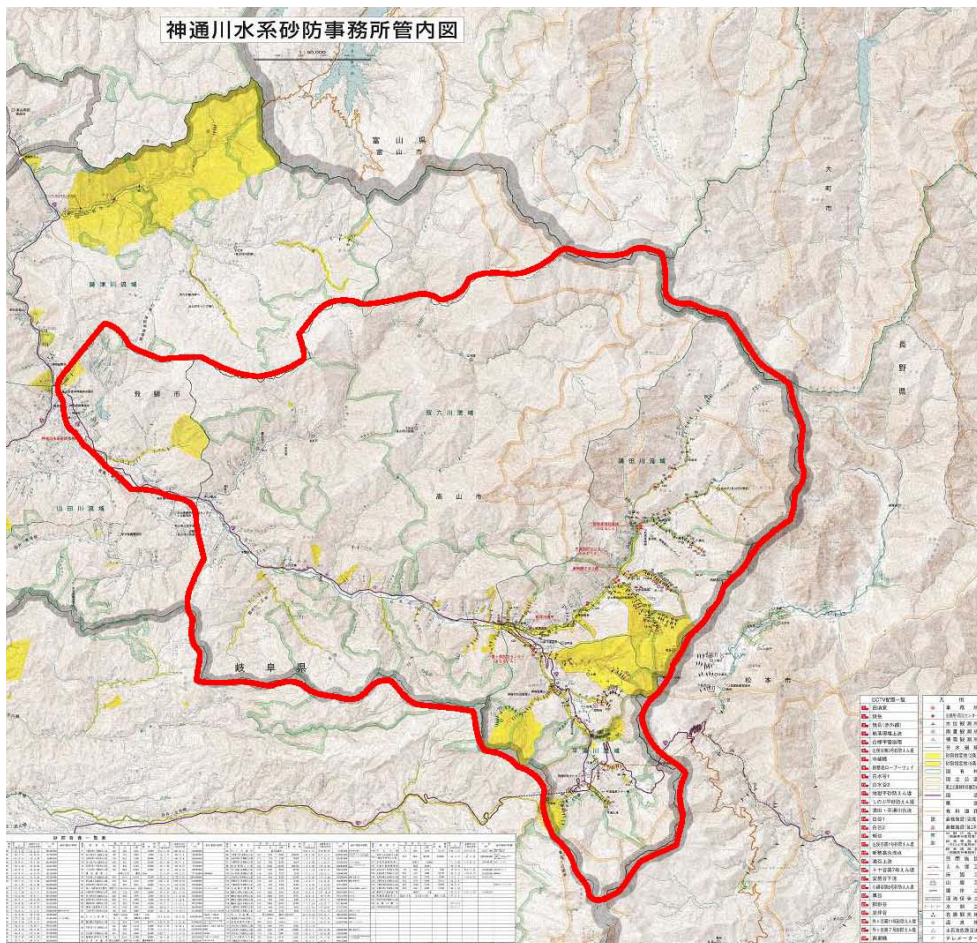
(株)ウエノ 水文観測所等見廻点検作業  
(工期:平成22年5月1日~平成23年3月31日)  
担当技術者 田中 徹  
主任技術者 本林 孝志



## 1) はじめに

本作業は、水文観測業務規定に基づき神通川水系砂防事務所管内(図-1)の水文観測所等(雨量・温湿度・積雪深・水位・流速(流量)・地震計・空振計)について観測機器及び観測施設の維持及び管理のため、計器の点検及び施設の維持補修自記紙の取替え、観測データの整理等を行うものです。

本作業で、観測点検時における労働災害の防止に向けて取り組んだ安全対策について報告いたします。



○ : 調査対象エリア

図-1 神通川水系砂防事務所管内観測所位置

## 2) 安全管理の対策について

未然防止活動について弊社で安全管理に関する会議を作業前と月定例安全周知会を実施した。

### 安全管理上の課題

各観測所点検箇所ルート移動及び自然条件に対するリスクが多く占めるので、基本事項を社内で打合せ、観測員全員に周知徹底を行いました。その内容を以下に列挙します。



写真-1 定例安全周知会状況

### 連絡体制対策

観測点検業務では広域の為、時間性や移動特性などの理由により、作業の現場事務所を設置することがありませんので、安全管理の拠点は弊社が事務所となり連絡などは携帯電話を通じて行うこととなります。本作業では山地に進入することが多く、携帯電話の電波が届かないため通話不可能となる地域では、衛星携帯の携帯を実施した。

### 山中対策

本年度は報道でも熊による人への被害が数多く報告されていました。また弊社の他業務において、太郎平雨量観測地点に定期点検登山中、熊との遭遇の報告が1件ありました。その時、同行登山ガイドさんが隠れた場所から爆竹で追い払いました。熊よけ用鈴は携帯していましたが、登山ガイドさんによると熊鈴の音が聞えにくい時もあるそうです、この情報によりもし熊を見たら隠れた場所から爆竹で追い払えるように爆竹の携帯を実施しました。

現地で喫煙する際には火災防止に配慮し、喫煙者に携帯灰皿の携帯を実施した。また、ゴミ等の持ち帰りも実施しました。

## 健康管理対策

弊社では、定期健康診断の励行とインフルエンザ対策として感染予防のため全社的に「手洗い、うがいの励行」を実施しました。

## 熱中症対策

熱中症による死亡災害は毎年発生しており梅雨明けからお盆頃にかけて多く、過半数は建設労働者だとあげられています。

熱中症の予防は、作業前、作業中にこまめに水分と塩分を補給することだと言われ予防対策とし毎年周知しています。

今年度はヘルメットにクールカバーを2分間水に浸し装着することで後頭部、首筋を冷却し熱中症の予防を実施しました。



写真-2 設置状況



写真-3 クールカバー装着状況

## 気象情報

気象情報と雨量及び河川水位に関しては、作業の前日と当日朝にホームページ等及びiモード情報を確認した。

## 土木工事対策

本作業は神通川水系砂防事務所管内全域に渡るため、観測地点に至る途中で工事現場を通過するということがあります。その際の対策として、監督員に事前情報提供してもらい工事担当者と工程調整をして工事作業の迷惑及び災害の起こらないよう実施しました。

## 交通災害対策

観測点検業務では車移動距離、運転時間が長いので商用車の始業前点検の励行が重要になり、商用車走行距離とオイル（5000 km毎）エレメント交換状況毎月20日に記入し車輛安全管理をしています。始業前に空気圧をチェックし運転します。運転中は携帯電話をすることを禁止し、携帯電話をする時は安全な場所に止めて電話するか、社員全員に配布されている携帯イヤホンを使用しています。交通ルールを遵守し安全運転の励行を実施した。

## 3) おわりに

弊社では品質マネジメントシステム（ISO9001 認証取得）の業務を円滑に進める手法の一つとしてPlan(計画) Do(実行) Check(評価) Act(改善)の4段階を繰り返すことによって継続的に改善するPDCAサイクルを活用し、危険元凶を特定しリスクアセスメントを行うことでリスク低減を継続的に実施しています。

安全管理は、リスク低減をする為一層の工夫と努力が必要と考えられ継続的改善し「無事故、無災害」を目指したいと思います。

最後に、ご指導を頂いた神通川水系砂防事務所をはじめ関係する皆様へ感謝申し上げます。

以上